

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



被爆 79 年の今、世界は？

1945 年（昭和 20 年）8 月、広島と長崎に相次いで投下された原子爆弾により、多くの人々が無差別に生命を奪われ、一命を取り留めた人も被爆者となり、苦しい生活を強いられて来ました。そして、被爆体験者は年々減少し、その悲惨さを後世に語り継ぐ活動をする人も少なくなりました。日本は世界で唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさ、悲惨さを世界に発信し、核廃絶に向けて、世界の先頭に立って呼びかけなければなりません。しかし、現実の世界はどうでしょうか。核保有国（核兵器を持つ国）は拡大する傾向にあり、日本の周辺にも中国・ロシアといった核保有国があり、北朝鮮でも核兵器の開発が加速しています。更に近年では、ロシアのウクライナ侵攻において、プーチン大統領が核兵器の使用の可能性をほのめかしており、もしも現実的に核兵器が使用されれば、世界が核戦争の脅威にさらされることとなり、最悪の場合には地球そのものが滅んでしまう可能性さえあります。現在、世界中に存在する核兵器のわずか 1 % が使われただけで世界が破滅すると予測する科学者もいます。仮に核兵器を使わなくても、世界中の原子力発電所が攻撃を受ければ、核兵器を使用したのと同じ被害を受け、地球上が放射能に覆われ、食料も生活する場所さえ奪われることになります。人類すべてが平和に「生きる権利」を保障するためにも、核兵器廃絶はもちろん、地球上から無益な戦争や紛争をなくすよう、努力することが必要です。現在の日本が戦争状態にないからといって、他人事のように考えてはいけません。まさに『誰か』のこと じゃない。そういう意識を一人ひとりが持つことが大切なのです。

NHK の朝ドラを見て思う事

現在、NHK で朝 8 時から放送している朝ドラ『虎に翼』は日本の女性で初めて弁護士・裁判官となった実在の人物をモデルにした物語です。舞台はちょうど戦前・戦中・戦後の激動の時代にあり、主人公の佐田虎子は、女性が初めて弁護士になることを認められた戦前に現在の明治大学に進学し、その後、司法試験に合格したものの、女性である事から弁護士としての仕事の依頼がないなど、様々な壁にぶち当たりました。戦後、日本国憲法が公布され、男女関係なく全ての国民に「**基本的人権**」が保障されても、簡単には男女平等の社会は実現されませんでした。その後、地道な努力によって、女性への差別は少しずつ改善されてきました。しかし、現在でも日本の状況は世界的にみると、まだまだ多くの課題が残されています。例えば、世界の先進国に比べ、女性議員の割合が少ないことや、総理大臣経験者に女性がないことなどが挙げられます。今回、自民党総裁選に数名の女性候補が出馬する予定となっています。実はアメリカ合衆国の歴代大統領にも女性はいません。ただし、次期大統領候補として民主党から女性候補が出馬しているので、アメリカ初の女性大統領が誕生するかもしれませんね。

朝ドラにも被爆者の話が…

今回の朝ドラでは、様々な人権問題を取り上げていますが、その中に、原爆の被爆者が訴えを起こしたという話が出てきています。本当は原爆を投下したアメリカを訴えたかったようですが、日本が平和条約を結んだことでアメリカに賠償を求めることができず、日本政府に対して賠償請求をしたということです。一発の核兵器が多くの人々の「**生きる権利**」を奪います。核戦争によってこの「美しい地球」が破滅への道をたどることのないよう、「**核兵器の無い世界**」を目指しましょう。